

統計学

第 115 号

研究論文

多項ロジットモデルを用いた新たな統計的マッチング手法の提案
..... 高部 勲 (1)

介護事業所へのアクセシビリティが介護サービスの地域差に与える影響
— 北海道の市町村を事例に —
..... 大澤 理沙 (18)

費用基準と生産性基準 — 世界産業連関データベースを用いた実証研究 —
..... 橋本 貴彦 (33)

書評

白石麻保著『計画経済の実証分析 — 中国の経済開発』(京都大学出版会, 京都, 2016年)
..... 稲葉 和夫 (45)

本会記事

経済統計学会第62回(2018年度)全国研究大会・会員総会 (49)
投稿規程..... (60)

2018年9月

経済統計学会

創刊のことば

社会科学の研究と社会的実践における統計の役割が大きくなるにしたがって、統計にかんする問題は一段と複雑になってきた。ところが統計学の現状は、その解決にかならずしも十分であるとはいえない。われわれは統計理論を社会科学の基礎のうえにおくことによって、この課題にこたえることができると考える。このためには、われわれの研究に社会諸科学の成果をとりいれ、さらに統計の実際と密接に結びつけることが必要であろう。

このような考えから、われわれは、一昨年来経済統計研究会をつくり、共同研究を進めてきた。そしてこれを一層発展させるために本誌を発刊する。

本誌は、会員の研究成果とともに、研究に必要な内外統計関係の資料を収めるが同時に会員の討論と研究の場である。われわれは、統計関係者および広く社会科学研究者の理解と協力をえて、本誌をさらによりよいものとするを望むものである。

1955年4月

経済統計研究会

経済統計学会会則

第1条 本会は経済統計学会（JSES：Japan Society of Economic Statistics）という。

第2条 本会の目的は次のとおりである。

1. 社会科学に基礎をおいた統計理論の研究
2. 統計の批判的研究
3. すべての国々の統計学界との交流
4. 共同研究体制の確立

第3条 本会は第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会の開催
2. 機関誌『統計学』の発刊
3. 講習会の開催、講師の派遣、パンフレットの発行等、統計知識の普及に関する事業
4. 学会賞の授与
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 本会は第2条に掲げる目的に賛成した以下の会員をもって構成する。

- (1) 正会員
- (2) 院生会員
- (3) 団体会員
- 2 入会に際しては正会員2名の紹介を必要とし、理事会の承認を得なければならない。
- 3 会員は別に定める会費を納入しなければならない。

第5条 本会の会員は機関誌『統計学』等の配布を受け、本会が開催する研究大会等の学術会合に参加することができる。

- 2 前項にかかわらず、別に定める会員資格停止者については、それを適応しない。

第6条 本会に、理事若干名をおく。

- 2 理事から組織される理事会は、本会の運営にかかわる事項を審議・決定する。
- 3 全国会計を担当する全国会計担当理事1名をおく。
- 4 渉外を担当する渉外担当理事1名をおく。

第7条 本会に、本会を代表する会長1名をおく。

- 2 本会に、常任理事若干名をおく。
- 3 本会に、常任理事を代表する常任理事長を1名おく。
- 4 本会に、全国会計監査1名をおく。

第8条 本会に次の委員会をおく。各委員会に関する規程は別に定める。

1. 編集委員会
2. 全国プログラム委員会
3. 学会賞選考委員会
4. ホームページ管理運営委員会
5. 選挙管理委員会

第9条 本会は毎年研究大会および会員総会を開く。

第10条 本会の運営にかかわる重要事項の決定は、会員総会の承認を得なければならない。

第11条 本会の会計年度の起算日は、毎年4月1日とする。

- 2 機関誌の発行等に関する全国会計については、理事会が、全国会計監査の監査を受けて会員総会に報告し、その承認を受ける。

第12条 本会会則の改正、変更および財産の処分は、理事会の審議を経て会員総会の承認を受けなければならない。

付 則 1. 本会は、北海道、東北・関東、関西、九州に支部をおく。

2. 本会に研究部会を設置することができる。
3. 本会の事務所を東京都文京区音羽1-6-9（株音羽リスマチックにおく。

1953年10月9日（2016年9月12日一部改正[最新]）

経済統計学会第62回(2018年度)全国研究大会・会員総会

常任理事会

I. 第62回全国研究大会

2018年9月10日(月), 11日(火)の2日間, 和歌山県民文化会館において全国研究大会と会員総会が開催された。また, 研究大会終了後の9月12日(水)に学生研究報告会と統計チュートリアルセミナーが統計データ利活用センターと和歌山県データ利活用推進センターで開催された。

全国研究大会, 学生研究報告会と統計チュートリアルセミナーでは総務省統計局, 統計センター, ならびに和歌山県のご後援をいただいた。研究報告会には, 会員ならびに一般参加者(非会員)を合わせて, 99名の参加があった。

II. 研究大会プログラム

期間: 2018年9月10日(月)～9月11日(火)

研究大会 9月10日(月) 9:30～18:30

9月11日(火) 9:20～16:10

会員総会 9月10日(月) 15:10～16:10

懇親会 9月10日(月) 19:00～21:00

理事会 9月9日(日) 14:30～17:00

学生研究報告会

9月12日(水) 9:00～12:00

統計チュートリアルセミナー

9月12日(水) 13:20～17:00

会場: 和歌山県民文化会館, 和歌山県データ利活用推進センター

経済統計学会関西支部

経済統計学会第62回(2018年度)全国研究大会プログラム委員会

代表者 和歌山大学観光学部 大井 達雄

9月10日(月)

9:10 受付開始(和歌山県民文化会館小ホールロビー)

9:30 開会

9:30～12:00 セッションA:企画セッション 会場:和歌山県民文化会館小ホール

国民経済計算の新たな展開

コーディネータ・座長:櫻本 健(立教大学)

1. 鈴木俊光(内閣府経済社会総合研究所)

先進主要国における分配QNA推計の実施状況とその位置づけ

2. 赤木 芽(内閣府経済社会総合研究所)

産業連関表の行部門統合に係る影響の検証

3. 鈴木 晋 (内閣府経済社会総合研究所)・小林裕子 (エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社)

教育の質の変化を反映した実質アウトプット・価格の把握

4. 吉岡真史 (内閣府経済社会総合研究所)

シェアリング・エコノミー等新分野の経済活動の計測に関する調査研究

5. 山岸圭輔 (内閣府経済社会総合研究所)

法人企業統計を用いた営業余剰の推計

9:30~12:00 セッションB:企画セッション 会場:和歌山県民文化会館大会議室 (5F)
人口減少社会における諸課題と地方統計の利活用

コーディネータ・座長:菊地 進 (東北・関東支部)

1. 芦谷恒憲 (兵庫県企画県民部・兵庫県立大学)

地域統計の政策への活用事例と利用上の課題

2. 御園謙吉 (阪南大学)

市町村の類似団体類型に関する一考察

3. 上藤一郎 (静岡大学)

結婚の幸福度

—静岡県「少子化対策及び結婚等に関する県民意識調査」に基づく分析—

4. 大澤理沙 (釧路公立大学)

介護予防と地域のウォーカービリティに関する考察

5. 森 博美 (東北・関東支部)

数量化IV類による三大都市圏の移動圏分析

12:50~14:50 セッションC:企画セッション 会場:和歌山県民文化会館小ホール
日本の統計史を考える

コーディネータ・座長:小林良行 (総務省統計研究研修所)

1. 佐藤正広 (一橋大学経済研究所)

杉亨二と統計—維新を生きた蘭学者

2. 上藤一郎 (静岡大学)

杉亨二と Haushofer の『統計学教程』

3. 廣嶋清志 (東北・関東支部)

旧戸籍簿人口の再現住主義化過程

4. 岩橋正樹 (総務省政策統括官(統計基準担当))

我が国の産業分類の変遷—戦前から戦後,そして現在—

13:00~14:30 セッションD:一般報告 会場:和歌山県民文化会館大会議室 (5F)
自由論題

座長:藤井輝明 (大阪市立大学)

1. 小西 純・田村朋子 (公益財団法人 統計情報研究開発センター)

東京圏における人口増加地域の空間分布の性質

2. 米澤 香・新井郁子・安井浩子(公益財団法人 統計情報研究開発センター)
国勢調査のミクロデータを用いた新世帯タイプの構築
3. 岡部純一(横浜国立大学)
行政記録と統計制度の理論—ヨーロッパとインドの統計改革に関する比較分析

15:10~16:10 会員総会

会場:和歌山県民文化会館小ホール

16:30~18:30 セッションE:共通論題セッション(学会本部企画)

会場:和歌山県民文化会館小ホール

データ利活用推進のための取組と今後の課題

コーディネータ:大井達雄(和歌山大学) 座長:田中 力(立命館大学)

1. 谷道正太郎(総務省統計局・独立行政法人統計センター 統計データ利活用センター)
統計データ利活用センターの活動について
2. 中内啓文(和歌山県データ利活用推進センター)
データ利活用推進への取組について~日本のデータ利活用拠点を目指して~
3. 菊地 進(東北・関東支部)
地方自治体における統計活用と統計データ利活用センターへの期待
4. 森 博美(東北・関東支部)
データの統合利用から見た公的統計の現状と展開可能性

19:00~21:00 懇親会

会場:ガーデンテラスリーフ(ホテルアバローム紀ノ国1F)

9月11日(火)

9:05 受付開始(和歌山県民文化会館小ホールロビー)

9:20~11:20 セッションF:企画セッション

会場:和歌山県民文化会館小ホール

ミクロデータを用いた実証分析における地域情報の活用可能性

コーディネータ:大井達雄(和歌山大学)・伊藤伸介(中央大学)

座長:小西 純(公益財団法人 統計情報研究開発センター)

1. 栗原由紀子(立命館大学)
生活時間データからみる地域特性について
2. 大井達雄(和歌山大学)
観光経営の季節変動分析
3. 藤岡光夫(静岡大学)
社会調査ミクロデータを利用したSPA法による地域課題分析
4. 村田磨理子(公益財団法人 統計情報研究開発センター)・伊藤伸介(中央大学)・出島敬久(上智大学)
全国消費実態調査に含まれる居住地情報の活用可能性

9:30~12:00 セッションG:一般報告

会場:和歌山県民文化会館大会議室(5F)

自由論題

座長：池田 伸（立命館大学）

1. 橋本美由紀（高崎経済大学非常勤講師）
有業介護者の介護支援利用の状況と生活時間
2. 作間逸雄（専修大学）
国民経済計算における雇用者ストックオプションの取り扱いをめぐる
3. 坂下信之（総務省 統計研究研修所）
諸外国における統計調査の欠測値補完方法の動向と手法の体系について
4. 坂田幸繁（中央大学）
標本調査データによるモデル・パラメータの推定—尤度利用の実際—
5. 高橋将宜（東京外国語大学経営戦略情報本部）
傾向スコアマッチングの適用による比率代入法の精度向上

9：20～10：50 セッションH：企画セッション 会場：和歌山県民文化会館中会議室（4F）

生産物分類

コーディネータ・座長：菅 幹雄（法政大学・日本統計研究所）

1. 宮川幸三（立正大学）
生産物分類の必要性と北米生産物分類（NAPCS）
2. 菅 幹雄（法政大学・日本統計研究所）
EUの生産物分類（CPA）について
3. 植松良和・永井一郎・坂田大輔（総務省政策統括官（統計基準担当））
我が国の生産物分類策定の展望

11：00～13：00 セッションI：企画セッション 会場：和歌山県民文化会館中会議室（4F）

産業連関計算（表と分析）I

コーディネータ：朝倉啓一郎（流通経済大学）・橋本貴彦（立命館大学）
座長：李 潔（埼玉大学）

1. 李 潔（埼玉大学）
開放経済I-Oフレームワークによるシングルデフレーション・バイアスに関する研究—JSNA長期データからの計測と要因分析を含めて—
2. 朝倉啓一郎（流通経済大学）
最終需要ベクトルの作成方法について
3. 菅 幹雄（法政大学・日本統計研究所）
産業連関表（供給・使用表）作成シミュレーション・モデルの開発
4. 橋本貴彦（立命館大学）
産業連関分析の応用と経済理論

11：30～13：00 セッションJ：企画セッション 会場：和歌山県民文化会館小ホール

貧困研究における統計利用

コーディネータ：水野谷武志（北海学園大学） 座長：福島利夫（東北・関東支部）

1. 村上雅俊（阪南大学）

2007年『就業構造基本調査』匿名データを用いたワーキングプアの分析

2. 宮寺良光（田園調布学園大学）

公的統計を用いた貧困問題研究の可能性の検討

13：30～15：30 セッションK：企画セッション 会場：和歌山県民文化会館大会議室（5F）

ジェンダー統計研究の先端的諸問題

コーディネータ：伊藤陽一（東北・関東支部） 座長：小野寺剛（環太平洋大学）

1. 吉田仁美（岩手県立大学）

障害者ジェンダー統計の諸問題

2. 渡辺美穂（独立行政法人国立女性教育会館）

人身取引をめぐるジェンダー統計の現状と課題

3. 杉橋やよい（金沢大学）

男女間賃金格差の国際比較の試み—指標と国際賃金統計の吟味を通じて—

4. 伊藤陽一（東北・関東支部）

女性・平和・安全保障とジェンダー統計

—安保理決議1325の国際・国内的動向の検討を通じて—

13：30～15：30 セッションL：企画セッション 会場：和歌山県民文化会館小ホール

統計改革に関する動向について

コーディネータ・座長：谷道正太郎（総務省統計局・独立行政法人統計センター
統計データ利活用センター）

1. 大浦 修（総務省政策統括官（統計基準担当）付統計企画管理官室）

統計法の改正—調査票情報の二次的利用を中心として—

2. 中村英昭（総務省統計局物価統計室）

消費者物価指数における借家家賃の経年調整について

3. 杉田貴司・櫻井智章（総務省統計局消費統計課）

消費動向指数（CTI）及び消費動向指数研究協議会の取組状況

4. 高井 勉・武藤杏里・山下雅代（独立行政法人統計センター）

公的統計マイクロデータ、POSデータ等を用いた消費動向の分析

13：30～16：10 セッションM：企画セッション 会場：和歌山県民文化会館中会議室（4F）

産業連関計算（表と分析）Ⅱ

コーディネータ：朝倉啓一郎（流通経済大学）・橋本貴彦（立命館大学）

座長：橋本貴彦（立命館大学）

1. 楊 淨（埼玉大学大学院）

WIODによる中国対日・米・欧・アジアの貿易構造分析

2. 張 南（広島修道大学）

Measuring Global Flow of Funds：A Case Study on China, Japan and the United States

3. 木下英雄 (大阪経済大学)
労働需要変化に対するその諸要因変化の貢献度分析
4. 尹 清洙 (長崎県立大学)
産業連関計算と応用一般均衡分析から見る情報の二重性
5. 泉 弘志 (関西支部)・戴 艶娟 (広東外語外貿大学)・李 潔 (埼玉大学)
日本・中国・韓国・米国の全労働生産性上昇率の計測とその要因分析

9月12日(水) 午前

9:00～12:00 学生研究報告会 (学会本部企画)

会場：統計データ利活用センター・和歌山県データ利活用推進センター (南海和歌山市駅ビル5階)

9:00 開催挨拶 菊地 進 (東北・関東支部)

1. 「和歌山県における人口移動の実証分析」
和歌山大学 (大溝里奈, 高瀬日菜子, 椿本夏生, 藤田玲美)
2. 「予定子ども数と理想子ども数に基づく静岡県の地域別将来人口推計」
静岡大学 (新井慎二, 石丸紘也, 岡本旬平, 川田萌恵, 岸端献斗, 手塚聖也,
永井義将, 二口誉之, 今井美祐, 木戸脇克, 小間実範, 橋本崇樹,
平松優佳, 山田将史, 望月雄太)
3. 「介護, 人手不足, 貧困を巡る経済と経済統計の活用」
立命館大学 (羽田望里)
4. 「最低賃金が所得分布に与える影響」
立教大学 (則竹悟宇)

11:00 質疑と討論

9月12日(水) 午後

13:20～17:00 統計チュートリアルセミナー (学会本部企画)

『地方自治体における統計データの利活用』

会場：統計データ利活用センター・和歌山県データ利活用推進センター (南海和歌山市駅ビル5階)

司会 菊地 進 (東北・関東支部)

13:00 受付

13:20 開催挨拶 大井達雄 (和歌山大学)

報告

- 13:30 「統計データ利活用センターの活動について」
谷道正太郎 (総務省統計局・独立行政法人統計センター 統計データ利活用センター)
- 14:00 「京都府と久御山町の若手職員による統計スキルアップモデル事業について」
石山喜治, 今西花梨, 大江拓也 (京都府政策企画部企画統計課)
- 14:30 「豊岡市のインバウンド戦略について」
川角洋祐 (豊岡市・一般社団法人豊岡観光イノベーション経営管理部)
- 15:10 「御所市の統計低活用の問題分析と活性化の方向性」
山口稔之, 吉岡 聖 (御所市統計研究会)

15:40 「地方経済の計り方とそこから見える統計的課題」

永尾吉賞(和歌山県調査統計課分析班)

16:10 質 疑

17:00 閉 会

経済統計学会第62回(2018年度)全国研究大会プログラム委員会

委員長 大井達雄(関西支部)

副委員長 橋本貴彦(関西支部)

委員 水野谷武志(北海道支部)

吉田 央(東北・関東支部)

伊藤 純(東北・関東支部)

中敷領孝能(九州支部)

Ⅲ. 会員総会

9月9日(日)14時30分よりの理事会審議を経て、2018年度会員総会が9月10日(月)に開催され、下記事項が審議・報告承認された。

1. 報告事項

(1) 入退会及び異動(敬称略)

北海道支部：会員数10名

転入会員(1名)	鈴木雄大	立教大学→北海学園大学	東北・関東支部→北海道支部
自主退会(1名)	高橋多美子		
除 籍(1名)	鳴海清人		

東北・関東支部：会員数126名(正会員111名・シニア会員2名・院生会員4名・その他会員9名)

新入会員(8名)	塩谷昌史	東北大学東北アジア研究センター	推薦者：伊藤陽一・山口秋義
	松本一郎	大正大学	推薦者：松丸和夫・坂田幸繁
	宮寺良光	田園調布学園大学	推薦者：水野谷武志・畠中 亨
	岩橋正樹	総務省政策統括官	推薦者：坂田大輔・櫻本 健
	楊 淨	埼玉大学大学院(院生会員)	推薦者：李 潔・朝倉啓一郎
	小林裕子	エム・アール・アイリサーチアソシエイツ(株)	推薦者：櫻本 健・菊地 進
	金 志映	日本貿易振興機構アジア経済研究所	推薦者：萩野 覚・田原慎二
	山澤成康	跡見学園女子大学	推薦者：坂田大輔・櫻井智章
転出会員(2名)	栗原由紀子	弘前大学→立命館大学	東北・関東支部→関西支部
	鈴木雄大	立教大学→北海学園大学	東北・関東支部→北海道支部
所属変更(3名)	児玉直美	一橋大学→日本大学	
	小巻泰之	日本大学→大阪経済大学	
	坂田大輔	立教大学→総務省政策統括官付	
	倉田知秋	立教大学→総務省政策統計官付	
自主退会(6名)	佐伯芳子, 高山洋一, 深川通寛, 池永輝之, 山口忠利, 二上唯夫		
死亡退会(1名)	山田 茂		

関西支部：会員数83名（正会員67名・シニア会員11名・院生会員3名・その他会員2名）

新入会員（2名）	三浦 剛	大阪府福祉部高齢介護室	推薦者：橋本貴彦・御園謙吉
	谷道正太郎	総務省統計局・統計センター	推薦者：小林良行・大井達雄
転入会員（1名）	栗原由紀子	弘前大学→立命館大学	東北・関東支部→関西支部
転出会員（1名）	渡邊淳司	岡山大学大学院→内閣府	関西支部→東北・関東支部
所属変更（2名）	坂西明子	奈良県立大学→立命館大学	
	田添篤史	京都大学大学院→三重県立短大	
自主退会（2名）	森 佳子, 劉 瑞興		
死亡退会（1名）	岩井 浩		

九州支部：会員数12名（会員の移動なし）

(2) 2019年度全国研究大会の開催について

2019年度研究大会は東北・関東支部が担当し、東北学院大学において開催予定であることが報告された。なお、開催日は2019年9月の第1週（9月6日～8日）で検討中。

(3) 機関誌『統計学』創刊60周年記念事業の進捗状況

機関誌『統計学』創刊60周年記念事業について、大井達雄委員長より現状報告があった。

(4) 学会賞について

2018年度の経済統計学会賞について、坂田幸繁委員長より該当者なしとの報告があった。

2. 報告承認事項

(1) 新学会長並びに新常任理事長の承認について

理事会で新学会長候補として金子治平会員が選出され総会で承認された。新常任理事については、理事会で上藤一郎会員の再任が承認され総会で報告された。

(2) 2020年度全国研究大会開催支部について

2020年度研究大会は関西支部による開催とすることが承認された。

(3) 2019年度全国プログラム委員会委員長、副委員長、委員（2017年9月～2018年9月）の選出

以下の会員が選出され承認された。なお委員については後日選出され理事会で報告された。

委員長：伊藤伸介（中央大学）
副委員長：伊藤 純（昭和女子大学）
委員：鈴木雄大（北海学園大学）、大井達雄（和歌山大学）、栗原由紀子（立命館大学）、山口秋義（九州国際大学）

(4) 学会法人化に関するWGの設置について

学会法人化について、調査・検討をおこなうためWGの設置が認められた。

- (5) 機関誌『統計学』創刊60周年記念事業委員会の1年延長と関連事業に関するWGの設置について

60周年記念事業委員会は規定により2018年度で終了することとなっていたが、2019年度までの1年間延長とそれに伴う予算措置が認められた。また記念事業に関連する新事業を検討するためWGの設置が認められた。

- (6) 2017年度全国会計報告・会計監査報告

小野寺剛会員の会計監査を受けた2017年度全国会計決算について栗原由紀子全国会計担当理事より報告が行われ、了承された。(本記事末尾の【資料1】の決算書参照)

- (7) 2018年度会計中間報告

栗原由紀子全国会計担当理事より2018年度全国会計予算案の執行状況について報告があり承認された。

- (8) 2019年度全国会計予算案

栗原由紀子全国会計担当理事より2019年度全国会計予算案の報告を受け、了承された(本記事末尾の【資料2】の予算書参照)。

- (9) 2017年度支部活動交付金収支報告

支部活動交付金収支報告は提出が遅れている支部があることから、後日理事会で報告することが承認された。

- (10) 全国会計の選出

全国会計担当に栗原由紀子会員(立命館大学)の再任が承認された(任期:2018年9月~2019年9月会員総会)。

- (11) 編集委員長、および委員(2018年度)の選出について

常任理事長のもと2018年度末までに次年度委員会構成を理事会に提案することが承認された。

[参考] 2018年度編集委員会(任期:2018年4月から2019年3月まで)

東日本ブロック 水野谷武志(2018年度 編集委員長),

小林良行(再任), 山田 満(再任)

西日本ブロック 池田 伸(新任, 2018年度編集副委員長, 2019年度編集委員長),

松川太一郎(新任)

- (12) HP委員会委員長(NL担当を含む)の選出について

HP委員会委員長に御園謙吉会員の再任が承認された(任期:2018年9月~2020年9月会員総会)。

- (13) 学会賞選考委員会委員について

学会賞選考委員会については、役職上の委員である金子治平学会員(会長)と上藤一郎会員(常任理事長)を除き、委員長も含めて後日理事会に提案することが承認された。

【資料1】

経済統計学会 2017年度決算

(自2017年4月1日～至2018年3月31日)

収 入	予算	決算	差額	支 出	予算	決算	差額
前期繰越	3,607,026	3,842,457	235,431	1. 誌代	1,200,000	639,071	-560,929
1. 会費収入	1,922,000	1,922,000	0	(1)『統計学』112号(通常分)	600,000	285,760	-314,240
(1)誌代・編集費	1,180,000	1,151,200	-28,800	(2)『統計学』113号(通常分)	600,000	353,311	-246,689
・北海道支部	58,400	48,000	-10,400	2. 本部事業費	795,000	800,855	5,855
・東北・関東支部	663,600	632,400	-31,200	(1)事務委託費	0	20,000	20,000
・関西支部	401,600	414,400	12,800	(2)ニューズレター発行費 (第48号, 第49号, 第50号分)	125,000	126,793	1,793
・九州支部	56,400	56,400	0	(3)研究大会関連経費	300,000	107,238	-192,762
(2)本部経費	672,000	660,800	-11,200	・大会準備金	200,000	0	
・北海道支部	33,600	28,000	-5,600	・プログラム印刷・発送費	100,000	107,238	
・東北・関東支部	372,400	355,600	-16,800	(4)通信・交通費	200,000	64,440	-135,560
・関西支部	232,400	243,600	11,200	・学会封筒代		46,440	
・九州支部	33,600	33,600	0	・通信費		18,000	
(3)団体会員会費	70,000	110,000	40,000	(5)名簿作成費	60,000	66,515	6,515
2. 雑収入	1,000	24,053	23,053	(6)HP関係経費	10,000	343,731	333,731
・受取利子	1,000	53	-947	・レンタルサーバー・ドメイン代	10,000	11,731	
・『統計学』113号非会員掲載料	0	24,000	24,000	・HP維持管理費	0	42,000	
3. 60周年記念事業	2,400,000	2,300,000	-100,000	・HPリニューアル委託費	0	290,000	
・60周年記念事業積立金 (前期繰越)	2,400,000	2,300,000	-100,000	(7)その他の事業費	100,000	72,138	-27,862
				・理事選挙関係経費	0	68,844	
				・その他	100,000	3,294	
				3. 支部活動交付金	312,000	306,800	-5,200
				・北海道支部	15,600	13,000	-2,600
				・東北・関東支部	172,900	165,100	-7,800
				・関西支部	107,900	113,100	5,200
				・九州支部	15,600	15,600	0
				4. 60周年記念事業	2,400,000	2,300,000	-100,000
				・『統計学』記念特集分発行経費	600,000	291,972	-308,028
				・60周年記念事業積立金 (次期繰越)	1,800,000	2,008,028	208,028
				5. 予備費	200,000	0	-200,000
				次期繰越	3,023,026	4,041,784	1,018,758
収入合計	7,930,026	8,088,510	158,484	支出合計	7,930,026	8,088,510	158,484

2018年3月31日現在の資産
総合口座 5,282,394
振替口座 764,537
現金 2,881
合計 6,049,812

上記、相違ありません。

2018年8月30日 経済統計学会 全国会計 栗原由紀子 印

2017年度経済統計学会全国会計の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係証票、預金通帳等を慎重に審査した結果、いずれも正確かつ適正であることを認めます。

2018年8月30日 経済統計学会 会計監査 小野寺剛 印

【資料2】

経済統計学会 2019年度予算

(自2018年4月1日～至2019年3月31日)

収 入	2018予算	2019予算	差額	支 出	2018予算	2019予算	差額
前期繰越	3,925,147	4,267,923	342,776	1. 誌代	1,200,000	1,200,000	0
1. 会費収入	1,912,000	1,886,000	- 26,000	(1)『統計学』114号(通常分)	600,000		
(1)誌代・編集費	1,151,200	1,129,200	- 22,000	(2)『統計学』115号(通常分)	600,000		
・北海道支部	48,000	48,000	0	(1)『統計学』116号(通常分)		600,000	
・東北・関東支部	632,400	625,200	- 7,200	(2)『統計学』117号(通常分)		600,000	
・関西支部	414,400	399,600	- 14,800	2. 本部事業費	934,000	1,034,000	100,000
・九州支部	56,400	56,400	0	(1)事務委託費	20,000	20,000	0
(2)本部経費	660,800	646,800	- 14,000	(2)ニューズレター発行費	150,000	150,000	0
・北海道支部	28,000	28,000	0	(3)研究大会関連経費	300,000	300,000	0
・東北・関東支部	355,600	352,800	- 2,800	・大会準備金	200,000	200,000	0
・関西支部	243,600	232,400	- 11,200	・プログラム印刷・発送費	100,000	100,000	0
・九州支部	33,600	33,600	0	(4)通信・交通費	200,000	200,000	0
(3)団体会員会費	100,000	110,000	10,000	(5)名簿作成費	70,000	70,000	0
2. 繰入金	200,000	0	- 200,000	(6)HP関係経費	94,000	94,000	0
・大会準備金の償還	200,000	0	- 200,000	・レンタルサーバー・ドメイン代	10,000	10,000	0
3. 雑収入	500	500	0	・ホームページ維持管理費	84,000	84,000	0
・受取利子	500	500	0	(7)その他の事業費	100,000	200,000	100,000
4. 60周年記念事業	2,008,028	1,908,028	- 100,000	・理事選挙関係経費	30,000	0	- 30,000
・60周年記念事業積立金 (前期繰越)	2,008,028	1,908,028	- 100,000	・学会法人化に向けた調査等経費	0	100,000	100,000
				・その他	70,000	100,000	30,000
				3. 支部活動交付金	306,800	300,300	- 6,500
				・北海道支部	13,000	13,000	0
				・東北・関東支部	165,100	163,800	- 1,300
				・関西支部	113,100	107,900	- 5,200
				・九州支部	15,600	15,600	0
				4. 60周年記念事業	2,008,028	1,908,028	- 100,000
				・『統計学』記念特集分発行経費	400,000	200,000	- 200,000
				・記念特集編集経費	200,000	100,000	- 100,000
				・60周年記念事業積立金 (次期繰越)	1,408,028	1,608,028	200,000
				5. 予備費	200,000	200,000	0
				次期繰越	3,396,847	3,420,123	23,276
収入合計	8,045,675	8,062,451	16,776	支出合計	8,045,675	8,062,451	16,776

編集委員会からのお知らせ
機関誌『統計学』の編集・発行について

編集委員会

2016年9月より、新しい規程にもとづいて、「研究論文」と「報告論文」が設定されました。皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

1. 投稿は、常時、受け付けています。なお、書評、資料および海外統計事情等については、下記の[注記3]をご確認下さい。
2. 次号以降の発行予定日は、
第116号：2019年3月31日、第117号：2019年9月30日です。
3. 投稿に際しては、新規規程にもとづく「投稿規程」、「執筆要綱」、および「査読要領」などをご熟読願います。最新版は、学会の公式ウェブサイトをご参照下さい。
4. 原稿は編集委員長(下記メールアドレス)宛にお送り下さい。
5. 原稿はPDF形式のファイルとして提出して下さい。また、紙媒体での提出も旧規程に準拠して受け付けます。紙媒体の送付先は編集委員長宛にお願いします(住所は会員名簿をご参照下さい)。
6. 原則として、すべての投稿原稿が査読の対象となります。
7. 投稿から発刊までに要する期間は、通常3ヶ月以上を要します。投稿にあたっては十分に留意して下さい。

編集委員会、投稿応募についての問い合わせは、
下記編集委員長宛メールアドレス宛に連絡下さい。

editorial@jsest.jp

編集委員長 水野谷武志(北海学園大学)
副委員長 池田 伸(立命館大学)
編集委員 小林良行(総務省統計研究研修所)
松川太一郎(鹿児島大学)
山田 満(東北・関東支部)

[注記1] 『統計学』の定期刊行に努めておりますので、できるかぎり早期のご投稿をお願いします。116号(2019年3月31日発行予定)への掲載を想定した場合、「研究論文」と「報告論文」の原稿は、2019年1月初旬を目途として、遅くともそれまでにご投稿下さい。

[注記2] 「研究論文」と「報告論文」は、別個に査読し、区分を変更しません。投稿に当たっては自分で申告して投稿しますが、この点ご留意下さい。

[注記3] 書評、資料および海外統計事情等について、執筆、推薦、および依頼等をお考えの会員がいらっしゃいましたら、企画や思いつきの段階で結構ですので、できるだけ早い段階で、編集委員会にご一報下さい。

以上

編集後記

本誌に投稿していただきました執筆者の皆様、そして快く査読をお引き受けいただきました査読者の皆様にご挨拶申し上げます。引き続き、会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

(水野谷武志 記)

執筆者紹介

高部 勲	(総務省統計局)	山下智志	(統計数理研究所)
大澤理沙	(釧路公立大学経済学部)	橋本貴彦	(立命館大学経済学部)
稲葉和夫	(立命館大学経済学部)		

支 部 名

事 務 局

北 海 道	062-8605	札幌市豊平区旭町 4-1-40 北海学園大学経済学部 (011-841-1161)	水野谷武志
東 北・関 東	192-0393	八王子市東中野 742-1 中央大学経済学部 (042-674-3406)	伊藤伸介
関 西	640-8510	和歌山市栄谷 930 和歌山大学観光学部 (073-457-8557)	大井達雄
九 州	870-1192	大分市大字且野原 700 大分大学経済学部 (097-554-7706)	西村善博

『統計学』編集委員

水野谷武志 (北海道) [委員長]	池田 伸 (関 西) [副委員長]
小林良行 (東北・関東)	松川太一郎 (九 州)
山田 満 (東北・関東)	

統 計 学 No.115

2018年9月30日 発行	発行所	経 済 統 計 学 会 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 音羽リスマチック株式会社 TEL/FAX 03 (3945) 3227 E-mail: office@jsest.jp http://www.jsest.jp/
	発行人	代表者 西村善博
	発売所	音羽リスマチック株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 TEL/FAX 03 (3945) 3227 E-mail: otorisu@jupiter.ocn.ne.jp 代表者 遠藤 誠

STATISTICS

No. 115

2018 September

Articles

New Statistical Matching Method Using Multinomial Logit Model
.....Isao TAKABE (1)

The Effect of Accessibility to Long-term Care Services on Regional Variations of
Long-term Care Utilization : A Case Study of Municipalities in Hokkaido
..... Risa OSAWA (18)

Cost Criterion and Productivity Criterion : An Empirical Study Using the World
Input-Output Database
..... Takahiko HASHIMOTO (33)

Book Reviews

Maho SHIRAIISHI, *Empirical analysis of a planned economy : China's economic
development*, Kyoto University Press, Kyoto, 2016
..... Kazuo INABA (45)

Activities of the Society

The 62nd Session of the Society of Economic Statistics (49)
Prospects for the Contribution to the *Journal* (60)

JAPAN SOCIETY OF ECONOMIC STATISTICS
